

1988年度

博士課程単位修得・修士論文題目

氏名 所属ゼミ名

博士課程単位修得論文題目

【商学研究科】

実体維持と貨幣資本循環	松本 寛	(森田)
会計基準の論理	大塚 成男	(中村)
——合衆国における会計基準設定プロセスの研究——		
運動貸借対照表論の類型的研究	斎藤 真哉	(森田)
財務的均衡の基本的性格と財務論展開の方向	寺石 雅英	(矢島)
——アメリカ財務論から出発して——		
条件付新株発行の会計	野口 晃弘	(中村)
テレコム・モビリティ論	今橋 隆	(杉山)
流動性制約と実物国際経済モデル	宮村健一郎	(吉野)

【経済研究科】

ESSAYS ON GAMES AND MATCHINGS	戸田 学	(荒)
消費と貯蓄	麻生 良文	(野口)
資本蓄積と利潤率変動	石倉 雅男	(松石)
預金保険制度に関する理論的考察	北川 浩	(寺西)
認識と市場プロセス	野澤 昌代	(塩野谷)
TO ESSAYS ON THE THEORY OF FIRMS AND ORGANIZATIONS		
	堀江 明子	(鈴村)
戦後自作農体制の形成と構造	宇佐見正史	(中村)
モスクワ会社の東方進出に関する一考察	伊東 秀征	(浜林)
マクロ経済と情報	島本 哲朗	(石)

【法学研究科】

株式会社分割をめぐる法状況と課題	吉田 正之	(堀口)
——フランス法・西ドイツ法を題材として——		
債権者間の平等確保の視点からの否認権の再構成	我妻 学	(竹下)
不能犯論の一考察	青木 人志	(村井)

—フランス刑法を素材とする比較法研究の試み—

刑事手続における被害者の法的地位 水谷 規男 (村井)

—フランス私訴制度の現代的展開を題材として—

【社会学研究科】

朝鮮語における日本語系借用語の研究 熊谷 明泰 (田中虎)

パリ民衆と6月蜂起 西岡 芳彦 (古賀暎)

精神分析の〈仕組み〉 薄井 明 (佐藤毅)

—《癒しの技法》論・序説—

マルクスの方法としての構造発生的方法 田島 慶吾 (嶋崎)

国家実体の変動と有機化の論理 神山 伸弘 (加藤哲)

—ヘーゲル『法の哲学』「国家」論の理念論的意味—

デリー・サルタナット時代における天文学 大橋由紀夫 (木山)

近世木曽林業における技術と労働形態 脇野 博 (佐々木)

1930年代におけるフィリピン独立問題 中野 聡 (油井)

—独立賦与と特惠貿易をめぐる米比関係の展開—

英領パンジャブ州における植民地政策と宗教アイデンティティ

長谷 安朗 (古賀正)

中国共産党の「戦後戦略」 丸山 鋼二 (三谷)

近現代中国における農村変革と村落形成 佐藤 宏 (三谷)

修士論文題目

【商学研究科】

製品ライン戦略と開発組織 青島 矢一 (榊原)

知識の不完全性と情報量 大上 慎吾 (金子)

医療システムに関する一考察 川端 博志 (野中)

Organization in Minds 川村 尚也 (野中)

—組織コンプレックスの変容についての一考察—

製品ダイナミクスの戦略 楠木 建 (榊原)

コミットメントの会計 小長光康文 (森田)

—貸借対照表能力の探究—

製品革新プロセスにおける製造部門の役割 米山 茂美 (野中)

組織における社会化プロセスに関する研究	申 美花 (榊原)
市場構造のダイナミズム	徐 正解 (佐久間)
—その理論とVTR産業への応用—	
信用と景気循環	大塚 晴之 (花輪)
動学的マクロ経済学の新展開	小西 大 (花輪)
日本企業の国際提携	小林 寛司 (竹内)
国際製品開発分業	遠山 亮子 (竹内)
海上保険における離路	鄭 淳在 (近見)
Configuration and Coordination: Japanese Firms and Globalization	
ラウシュワグ・ローラ・ジニン	(竹内)

【経済研究科】

19世紀第3四半期におけるイギリス石炭鉱業の労使関係	浅見 誓一 (神武)
塩化ビニール工業における技術転換	景 文学 (南)
中国における設備投資の決定要因の経済分析	朱 炎 (石)
日本石油化学工業の成立過程	張 英莉 (中村)
—1960年代を中心として—	
補助金の理論とその実証分析	韓 聖熙 (石)
同業組合と工業組合に関する比較研究	葉 暁林 (清川)
AN INTERTEMPORAL APPROACH TO CURRENT ACCOUNT IMBALANCES	早川 達二 (荒)
リカードの等価定理における諸前提の検討	天利 浩 (野口)
NON-REPRODUCIBLE GOODS AND ECONOMIC WELFARE	石本 治 (山崎)
国際収支危機	大倉 正典 (寺西)
賃金決定と労働組合	小川 浩 (武隈)
正規性の局所最良不変検定	桑名 陽一 (刈屋)
EXISTENCE OF EQUILIBRIUM	原 千秋 (山崎)
一般線形回帰モデルにおける推定量の性質	福地純一郎 (刈屋)
THEORY OF INTERNATIONAL CAPITAL MOVEMENTS	古澤 泰治 (池間)

フィジォクラートにおける価格論と経済科学 御崎加代子 (高須賀)
韓日経済関係と韓国の産業発展メカニズムの動態的関連

柳 寛米 (山沢)

海外がとらえた日本の金融制度

藤本真由美 (江口)

【法学研究科】

慰謝料の性質と算定基準 (上) (下)

中村 美華 (好美)

—西ドイツにおける慰謝料算定論—

インサイダー取引の規制

盧 盛鑫 (堀口)

—米国および日本法を中心として—

行政法における私人の行為

鹿子嶋 仁 (南)

アメリカ通商政策における「相互主義」概念の変遷

杉浦 光 (野林)

「管理された革命」構想とその坐折

杉田 米行 (有賀)

選挙制度と国民代表

只野 雅人 (杉原)

—フランス第三共和制期の選挙制度と選挙改革議論を素材とした研究—

国家安全保障会議研究序説

中江 新 (野林)

米国の対韓政策 1904～5年 (上) (下)

長田 彰文 (有賀)

台湾の法的地位論

黄 遠龍 (桑原)

日中国交回復に至る日中友好協会の働き (上) (下)

張 鍾 (有賀)

日本法制における戦後改革は本当に実現したか

郝 紅宇 (村井)

—少年審判の性格を中心—

【社会学研究科】

中国における近代商業新聞の形成

黄 昇民 (山本)

—19世紀清朝末期を中心として—

安保条約に対する中国の態度の変化

丁 曉宇 (田中皓)

韓国の出生率の変化と女性の労働参加

金 水鏡 (古賀匠)

19世紀後半のイタリアにおける女性解放思想

勝田 由美 (矢沢)

—アンナ・マリア・モッツォーニの『女性とその社会的諸関係』(1864)

を中心に—

近代日本の天皇制国家の国民教化と広池千九郎

李 元範 (安丸)

—民間教化団体報恩協会の発生過程をめぐって—

- 平等な教育をもとめて 大森 一輝 (油井)
—アンテベラ期におけるボストン黒人のたたかい—
Simonde de Sismondi における社会観と労働者窮乏化論について
岩本 吉弘 (古賀英)
漢語構造論研究についての一考察 丁 伊勇 (田中虎)
—張東蓀, 高名凱について—
明治初期『読売新聞』における詩歌の社会的性格 土屋 礼子 (田中虎)
ベギン運動とベギンホフの形成 上條 敏子 (阿部)